

**第 23 回 BC 州日本語弁論大会**  
**2011 年 3 月 5 日 (土)**  
**優秀作品集**

**BC 州日本語弁論大会実行委員会**

この作品集は、参加者の原稿を元に BC 州日本語弁論大会実行委員会が編集したものである。

## 第 23 回 B C 州日本語弁論大会

日時：2011 年 3 月 5 日 土曜日 午前 10 時 00 分

場所：UBC Asian Centre

コーディネーター：Rebecca Chau (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

Noriko Omae (SFU/サイモンフレーザー大学)

司会者：Morgan Barnes and Drew Wallin

審査員：Martha Bassett (St. Georges School)

Yuko Nakamoto (JALTA)

Nobuhiro Nakamura (UBC-Ritsumeikan)

Yasuyo Sawada (Kiyukai)

Yoko Shimosaka (Global Partners Institute)

Catherine Yamamoto (Riverside Secondary School)

Choji Hayashi (Langara College)

Hideki Ito (Consul-General of Japan)

Kazuko Mito (Capilano University)

Sumiko Nishizawa (Kwantlen Polytechnic University)

Kazuyuji Okamoto (Konwakai)

Michiko Suzuki (UBC)

出場者：

### 【高校 初級】

- |                 |   |
|-----------------|---|
| 1. AlisonChan   | ちいさなことから From the Little Things                             |
| 2. SherryKim    | まなつのサンタ Christmas in July                                   |
| 3. Betty Nguyen | きせき Miracle   |
| 4. Jessica Guan | アニメに見られる日本の文化<br>Look at the Culture through Japanese Anime |
| 5. Tiffany Ho   | サンシャイン・シッティー Sun Shine City: My Trip to Japan               |

### 【高校 中級】

- |                   |  |
|-------------------|--|
| 1. Moo-Kyung Choi | 夏休みの貴い体験 Last Summer's Precious Experience   |
| 2. Jasmine He     | もし環境を変えることできないならば、自分自身を変えます<br>If the Environment is Unchangeable, then try to Change Yourself |
| 3. Wonjun Kim     | 日本の伝統と今の日本<br>Traditional Japanese Culture and Current Japan                                   |
| 4. Michael Lin    | 笑顔で With a Smile   |
| 5. Yue Ren        | できる事 One Thing that I Can Do   |

6. Cindy Liu 予想外の結果 Unexpected Outcome  
7. Ryker Noble せんそうはかわりません War Never Changes

【高校 オープン】

1. Jisun Son カナダで見つけた夢 The Dream Found in Canada  
2. Vivian Sung ダーウィン賞 The Darwin Award  
3. Usman Yahya こどものときはわすれない Unforgettable Childhood Events

【大学・一般 初級】

1. You Jin Jang 朝ごはん Breakfast  
2. May Lai 「お宅」が好きです I Like Otaku  
3. Esther Lee 私の人生は私の物 My Life is Mine  
4. Noon Sol Lee 近いが遠い国、韓国と日本 Close but Far Countries, Korea and Japan  
5. Wenjie Shi 怖いお姉さん Scary Girl  
6. Ashley Wang 温かいコミュニケーション Warm Communication  
7. Tina Wang 私の犬 My Dog

【大学・一般 中級】

1. Kung Ho Chiu 私の痴漢体験 My Chikan Experience  
2. Jane Horton 日本の不思議な言葉 The Strange Words of Japan  
3. Sam Ramdani 多文化主義の落とし子 Fallen Child of Multiculturalism  
4. Christopher Unger 自分を笑うこと Laughing at Onself  
5. Alexandra Wagstaffe カナダ人の必要な所 Necessary Place for Canada  
6. Jenny Yip 私の幼少時代 My Childhood

【大学・一般 上級】

1. Veronica Chan パネくビシヨーな日本語? Fragmented Weird Japanese?  
2. Yu Chi Chou 日本を変える 草食系男子 To Change Japan - Herbivore Boys  
3. Andrew Huang だって、みんな人間だから After All, We are All Humans  
4. Tony Ni ファンサブとスキャンレーションと著作権をめぐって  
Regarding Fansub, Scanlation and Copyright  
5. Anais Pang 曖昧な習慣から脱却 Breaking the Habit of Ambiguity

【大学・一般 オープン】

1. Aiste Blaviesciunaite 三つ文化の教え What I have Learned from Three Cultures  
2. Jay Kim 私は誰ですか? Who am I?

## 入賞者

### 【高校部門】

初級部門	第1位	Sherry Kim	まなつのサンタ
	第2位	Alison Chan	ちいさなことから
	第3位	Jessica Guan	アニメに見られる日本の文化
中級	第1位	Cindy Liu	予想外の結果
	第2位	Moo-Kyung Choi	夏休みの貴い体験
	第3位	Yue Ren	できる事
	特別賞	Michael Lin	笑顔で
	特別賞	Ryker Noble	せんそうはわかりません
オープン	第1位	Vivian Sung	ダーウィン賞
	第2位	Jisun Son	カナダで見つけた夢
	第3位	Usman Yahya	こどものときはわすれない

### 【大学・一般部門】

初級	第1位	Ashley Wang	温かいコミュニケーション
	第2位	Wenjie Shi	怖いお姉さん
	第3位	You Jin Jang	朝ごはん
	特別賞	May Lai	お宅が好きです
中級	第1位	Sam Ramdani	多文化主義の落とし子
	第2位	Kung Ho Chiu	私の痴漢体験
	第3位	Christopher Unger	自分を笑うこと
上級	第1位	Anais Pang	曖昧な習慣から脱却!
	第2位	Yu Chi Chou	日本を変える 草食系男子
	第3位	Andrew Huang	だって、みんな人間だから
	特別賞	Tony Ni	ファンサブとスキャンレーションと著作権をめぐるって
オープン	第1位	Jay Kim	私は誰ですか?
	第2位	Aiste Blaviesciunaite	三つ文化の教え

## まなつのサンタ

Sherry Kim

来年もまた来てね。少女から、手づくりのプレスレットをわたされたとき、おどろき、かんげきなみだがでてきました。メキシコというきれいな海を思いだす人がおおいと思います。でも、私はメキシコであったこともたちのかおがうかびます。

私と兄は、8年生の夏、教会のボランティアでほかのおとなたちとメキシコの山のむらに、一週間たいざいしました。はじめ、子どもたちははずかしがってかくれてしまいました。でもいっしょにクラフトをしたり、ダンスや歌をうたったりするうちにだんだんころをひらいてきました。くつもなく、かさはバナナのはでした。

いちばんつらかったのはかなしそうな子どもたちの目でした。くらくてせいきのない目でした。わたしたちのミッションはそんな子どもたちに「愛とゆめ」をあたえるサンタになることでした。ところがりょうしんにむりやりいれられた私は、はじめ、あににふへいふまんばかりいっていました。「こんな時間のむだ」、ボランティアなんてきょうみない、ホームステイした家の「おてあらいがきたない」、「ごはんがあわない」と

しかし、そんな気持ちが日に日にかわってきました。気持ちをうごかしたのは子どもたちのひょうじょうのへんかでした。私たちが行くのをまっけて、だきついたり手をひっぱったりして「あそぼう！あそぼう！」とところからよろこんでくれるのです。私のこんなささやかな行動がやくにたち、人によるこびをあたえられるのだと思ったら、ほんとううれしくなりました。そして人のためにはたらくことが、自分をこんなにしあわせにするとはおもいませんでした。ミッションがすいこうできたよろこびとじしんでむねをいっばいにして帰国しました

それから、私は、ボランティアはもちろん、アルバイトもはじめて、つぎの夏のりょうしんをつくりました。りょうしんは私たちのせいちょうをとてもよろこんでくれました。私は人のためになっただけでなく、それが私の自信や生きるよろこびにもつながるのをしったのです。

私たちがあのメキシコの子ども達のサンタになれたのなら、私に「よろこびと自信」をくれたあの子ども達とりょうしんがあの夏の 私たちのサンタだったにちがいありません。

## ちいさなことから

Alison Chan

「あなたが後進国に住んだら、水をのんではいけません。あなたが先進国に住んだら、空気をすってはいけません。」かんきょうもんだいをしらべているときにであったことばです。とてもおどろきました。世界中で、今、ちきゅうの危機がさげばれています。

「ちきゅうをすくえ」「まだおそくない！いまならかえられる！」「ひつようなものをひつようなだけ！」などと、いったい何をすればよいのか、私にできることはないのか、私はこの問題についてしたいと思い、学校のしょくぎょうたいいけんで EPIC Living Sustainable EXPO「(よりよいせいかつ EXPO)のしごとをえらびました。それは、かいじょうで十二しゅるいのごみのせんべつを手だすけするしごとでした。来場者は大変きょうみをもち、きょうよくてきてました。

そんなひとたちが、何メートルもないとなりのフードコートへいったとたん、ごみを何もかんがえず、ばいばい一つのごみばこにすてていったのです。私たちのキャンペーンは、いったい何だったのだろう。」とわたしはおどろきをおぼせませんでした。

EXPO が終わってから、さらに環境問題にきょうみをもち、調べ始めました。そして「もし世界が百人の村だったら」という本に出会いました。この本に書いてあることに私はショックを受けました。村すなわち、ちきゅうのエネルギーは、百人のうち二十人が80%をしょうひしているそうです。私はその20人の中の人間です。このままだったら、25年後、私たちは、じゅうぶんな飲み水やたべものがえられなくなります。これは、すべて私たちがげんいんではっせいしているのです。アメリカのふぐだいとうりょうだったゴア氏も「環境問題のかいけつさくは、私たちがそれをかならず、じつげんするのだ」といふ、強いけついをもちなければならぬ。それはまさしく私たちの手の中にあるのだ」とうたえました。

バーナビーの学校でも、環境をまもるかつどうがさかんになってきました。私の学校でも、今年「Don't drink from bottled water」(ペットボトルをへらそう！)のキャンペーンをすすめています。いんりょう水のきかいがはじめておかれまして。

私もできることをはじめました。いつもスクラップペーパーをつかったら、ごみばこの上に「ほんとうにもうつかえませんか。」と紙をはりつけています。少しずつ、少しずつ、私はちきゅうをすくいます。みなさんも、とにかく、ちいさなことからはじめませんか。

## アニメに見られる日本の文化

Jessica Guan

みなさんはアニメが好きですか。日本はあまり大きくない国ですが、面白いアニメがたくさんありますね。私は様々なアニメを見ている中で、日本のどくどくな文化を感じました。

私は9歳の時に日本のアニメの「ナルト」をはじめて見て、すばらしいアニメだと思いました。ナルトはいつも努力するのに、成功しませんでした。でも彼はあきらめないで、もっとがんばりました。このアニメを見て、みんなは同じようにがんばると思います。私ももっと強い人になりたいので、勉強をあきらめないで、前を向いて歩こうと思います。このアニメは日本文化の人の姿勢を表現していると思います。「テニスの王子様」も私の好きなアニメです。このアニメの中で大切なチームワークについて習いました。主人公のリマは青学にはじめて入ったときに、テニスは一人のスポーツだ、チームは重要ではないと思っていました。彼は後にチームの大切さがわかります。このアニメを見ながら私は友達と一緒にいてうれしい時をかんがえました。日本人たちは友情やグループで行動することを大切にしますね。それがアニメでもよく表現されていると思います。

みんな日本のアニメのことを話す時に、いつも宮崎駿かんとくについて話します。かんとくの映画をいっぱい見て、すごいアニメーションだと思いました。彼とその他の多くの日本人のやさしさと平和の思いを感じることができます。戦いのシーンもたくさんありますが、一番重要なメッセージは人が平和で、楽しく生活できることです。スタジオジブリの作品には自然の美しさも感じられます。よく緑と青が使われていて、その色が自然を象徴しています。いろいろな感動があって、みんなは宮崎氏のアニメが大好きです。

私の好きなアニメは以上です。アニメには文化の要素がたくさんあって、アニメは日本文化の一つの表現法だと思います。日本文化はやわらかさを表す菊と強さを表す刀の両方を含んでいると思います。今日の世界は「グローバル ブリッジ」で、国と国間の理解がとても大切です。だから人々のよいコミュニケーションがひつようです。日本の面白いアニメは日本と世界とのコミュニケーションの架け橋になると思います。私もしょうらい日本に行って、もっと勉強して、この架け橋にこつげんできるよう、がんばります！

## 予想外の結果

Cindy Liu

それは2008年の5月でした。その日はいつものように始まりました。しかしその日はいつものように終わることなく、忘れられない日になってしまいました。ごこ2時、四川ははげしくゆれました。とつじょ震度7.9の大地震がおきたのです。多くのかおぐがはいされ、その下じきになって、子ども達をふくめた7万人がなくなりました。そのはげしさから、震源地の街は完全にはかいされ、たちなおるのはこんなだろうと思われました。私は少しはなれた祖母のうちにいて、さいわい、ひがいはそれほどではありませんでした。この時、お金もけや自分の子供にしか興味がなく、ほかの人のことをあまり考えなかったまわりの人々がおどろくべきこうどうをとったのです。

とつぜん、たくさんのボランティアがしゅつげんしました。道は地すべりのどしゃでうま、ゆれもつづいていました。きゅうじょのぐんたいの大がた車はひさい地に入ることができませんでしたが、ボランティアの人たちはおそれず、四りんくどうにぶんじょうし、ひとばんかけて運転し、食料をはこんでいったのです。山の道をすすむのはこんなんでしたが、だれもあきらめなかったのです。命をきけんにさらしている多くのボランティアをテレビで知り、とてもかんどうしました。

そのきゅうじょかつどうやしえんをとおして、たくさんの人がかかりました。それは命への思いです。私のともだちもそうでした。地震の前、彼は遊んでばかりいて親を心配させていました。でも、ふしよした人々を医師がけんしんてきにきゅうじょしているのを見て、心づかれたのです。彼は、いぎある仕事につきたいと、今、医者になるため大学でべんきょうにはげんでいます。

同じ年の9月、私はカナダにもどりました。私も何か人のやくにたちたいと思い始めました。学校にはボランティアクラブがあります。その中のなんみにし金えんじょをするクラブと老人ホームのお手伝いをするクラブに入りました。誰かをたすけることができるのは、ほんとに嬉しいことです。

多くの人々が「今の社会はぶしつしゅぎで、ほかの人を思うより、とこかくお金だ！」と考えているといわれています。でも四川の地震がそんな人ばかりではないことをしょうめいしてくれました。地震はたくさんのひげきとくつうをもたらしましたが、人々のよい面もひき出してくれたのです。それは、私にとつても予想外の結果でした。

## 夏休みの貴い体験

Moo-Kyung Choi

去年の夏休み、私が韓国のむしあつさに苦しんでいた時、父は私に「病院でボランティアをしたらどう？」と言いました。病院でボランティア」と聞いた時私はずいぶんいいところでらくにすわってボランティアの時間を終えることができると思い、とてもうれしくなりました。でも、私のけんどうは大きくはずれていました。カナダでは母にいつも学校まで車でおくってもらっているので、ふべんを知りませんでした。でも韓国では自分で行かなければならないことに気づき、一時間ぐらいかけてバスとちかてつで病院に通いました。外の気温は30度をずっとわまわっていました。バスとちかてつの中はおおくの人が入って足のふみばもなく、一時間ぐらいずっと立っていました。そのふべんをけいけんして、「どうしてこんなことをしているんだろう？ 意味があるのかな？」と思ってわずらわしくてはらがたちました。そしてやっと病院にどちやくしました。

私の仕事は毎日しゅじゅつしつで使う数え切れないほどのガウンをたたむ事でした。そのガウンを見た時、とてもめずらしかったので、私は「これが本当にしゅじゅつしつで使うものなのかな？」と思いました。でも、責任を果たすためにいっしょうけんめいガウンをたたみました。それで毎日三時間ぐらいはたらき、一ヶ月のボランティアもいつのまにかおわってしまいました。

ボランティアが終わって一週間後に母が急に病気になってその病院でしゅじゅつをしなければならぬのでした。しゅじゅつの日母が着ていたガウンはあのボランティアの時に私がたたんだものかもしれませんでした。その母をみてはじめて、ガウンをたたむことが「たいせつなことだった！」と気づきました。そして、母のしゅじゅつの先生も私がそこでボランティアをしていたことを知っていましたから、ガウンをたたむことは小さいことですが、だれもしなければかんじやもしやふべんでたいへんです。このあいだは本当に「ありがとう」と言ってくれました。それを聞いて、はじめにボランティアの時間のことだけ考えた私がとてもはずかしくなりました。短いボランティアでしたが、私にとっては「あ」があるボランティアはとてもとうかつたので、これからボランティアをする時にはそんなに小さいことでも「いい」ところがまえで「組もう」と思います。

## できる事

Yue Ren

まだ静かな木曜日の午後です。秋のバンクーバーは 雨が降ったり 風も強いですが。それでも、私は良い気持ちで、ローズウッド邸宅に向かいます。ローズウッド邸宅はリッチモンドの老人ホームです。そんなに大きくないが、環境は、その名前のおと綺麗です。近くにいるのローズは良い臭いが付いてどこからでも見える、まるで薔薇の花たちが歌を歌っているような感じです。何回でも、この景色を見えれば心の中がいっぱいで、幸せです。私はいつの間に、この建物を尊敬しました。

ここで、私の任務は毎木曜日に来て、一時半ぐらいピアノを弾きます。私は、三才からピアノの練習を始めました。いままで、ピアノレベル十の証明書が持っていたが、私にとって、ピアノの意味はそんなに大切じゃなかった。でも今私のこの技能を使うことなんて、本当にびっくりしました。それにしても、私は軽音楽が上手ではありません。いつも元気にピアノを弾きます。でもこの時私のそばにいるのは若い人達じゃない、優しいお年寄りの方々が座っています。皆さんは楽しそうに、きたい目するようにピアノの前にいるの私を見つめます。ああ、あの気持ちはもう二度と不安じゃない、私はそのきたい目を答えしなければなりません。そう考えればまるで私の指がふしきな能力が持っているみたい。私はがんばっています、そして老人達は私の音楽を楽しみ聞いています。これは命がついているの演奏、たましいからの音、そして老人達の心をさわっています。温かい心の風を感じている時皆感動します。

終におわらなぎゃの瞬間が来ます。私は見上げて、目の前のは自分のお婆ちゃんの姿です。お婆ちゃんは多分ローズウッドのお年寄り達と同じ寂しかも、まごむすめを毎日待っています、誰がお婆ちゃんだけの為にピアノを弾いてあげられますか？誰がお婆ちゃんだけの為に毎木曜日彼女のいえに行きますか？今カナダにいる私ローズウッドの古いピアノのまえに座っている私できることはただ一つ、自分からお婆ちゃんへその思いローズウッドの皆さんと話します。私はこの皆さんの子供をかわって、どうしても伝えたい言葉を音楽で伝えます。

## ダーウィン賞

Vivian Sung

人の死は悲しいものです。でも、死に方によっては賞がもらえるのです。それも愚かであればあるほどいいのです。その賞の名前はダーウィン賞と言います。

ダーウィン賞とは、愚かな人がその愚かさ故に愚かな死に方をしたことをたたえる賞です。なぜならば、そのおかげで愚かな遺伝子を人類から取り除くという貢献をしたからです。この賞はブラックユーモアに近く、人がどんなに情けなく死ぬことがあるのかを見せてくれます。

ダーウィン賞に対して反対する人も賛成する人もいます。なぜ反対するかというと、「人が死んだと言うのにそれをからかっている。だからダーウィン賞は消えるべき。」ということです。賛成する人は「死んだ事は悲しい事だけど死んだ理由があまりにも面白い。ほかにこの賞にいいところがあるはず。だからダーウィン賞はつづくべき。」と言っています。

私はダーウィン賞に賛成です。と言うと、大人の人達に「今の子供達はコンピュータゲームばかりして死をとて軽く考えている」と言われそうです。でも私はそうは思いません。かれがるしく思われているようですが、実はそうではないのです。

まずこの賞は人々に楽しみを与える事ができます。あきれ程情け無いけれど、笑いが止まらなくなる死に方があります。スチープンと言ふ名の男は釣りをしようとする時自分のボートに穴があいていることに気付きました。彼は悩んだあげくにボートをテープで修理して釣りをしましたが、結局ボートは水に沈んで彼は溺れ死にました。フランスでは、27歳の女の人が運転中木を突き飛ばして死亡しました。事故の原因は育てていたたまごっちの御飯をやるために運転を疎かにしていたからです。このような話を聞いて面白くない人が果たしているのでしょうか。ダーウィン賞のように人に楽しみを与えることができる賞は続くべきだと思います。

それからダーウィン賞にはもうひとつ大事な存続すべき理由があります。この賞をつづけければ似たような過ちやあとさきを考えずに愚かに行動する人たちを減らす事ができるのではないのでしょうか。きっとダーウィン賞の受賞内容を見たら何か愚かなことをしようとする時、もう一度考えなおすきっかけとなるでしょう。そして、ひょっとしたらたくさんの命を救う事ができるかもしれません。

私はダーウィン賞の受賞が続くべきだと思います。ダーウィン賞はけっして非道徳的な賞ではありませんし、むしろ人に楽しみを与えることができます。そして人々のあやまちを防止する事や安全に注意させる事は特にいいところです。このような理由により私はダーウィン賞をつづけることに賛成します。でも残念なことに、受賞者は、賞を受け取るチャンスを逃して死んでしまいました。

## カナダで見つけた夢

Jisun Son

カナダに来て私だって夢をみ、それを実現しようとする事ができることをはつきりとしりました。私にも夢があるということさえ、私が韓国にいた時はきづくことありませんでした。私は韓国で中学校三年生まで勉強をつづけました。韓国にいる時の私は、勉強のじゅうあつかんしかありませんでした。中学生達はいい高校に入るために夜が明けるまで勉強しました。私もその一人でした。そしてとても私はつらかったです。今考えてみると、その時の私は、負けず嫌いで、ほかの生徒に負けたくないという気持ちだけでべんきょうしたみたいです。つまり、競争に勝つことしか考えていませんでした。

この競争は何のための競争？何故競争するの？こんなことを考えたこともありませんでした。いい高校に入ることが私のすべてでした。私より優れた生徒たちの中で競争に夢中になるあまり、私は夢を持つことを忘れていました。試験地獄で自分を失いかけていました。いつも遅くまで勉強している私を両親はとても心配していました。こんなに勉強したのに、結果はあまりよくありませんでした。これではいけないと、母と弟と私は父を韓国にのこして、カナダに行くことになりました。

私たちは二年半まえにカナダに来ました。カナダは韓国と違って学生同士の競争が熾烈でないと感じていた私でした。でも、カナダで予期しなかった悲しい経験をする事になりました。韓国では一度も感じたことがない、見えない差別や冷たい視線は、私の心をぐっさりえぐりました。英語がほとんど出来なかった私たちは恥ずかしいそしてどうして？と思わされる侮辱を受けたと思いました。あからさまな無視、汚い言葉、不親切なアドバイスなどを経験しました。でも、私はそれによってもっと強い人間になったと思います。私のために家族がばらばらになって、英語が話せないのに、私とカナダに来る決心をした母を思う気持ちが私を強くしたのだと信じています。

私は何もおかしくはないのだ。私がおかしいから、カナダ人は私をいじめめるのではないのだ。確かに私は英語が話せない。確かに私はカナダ人と違う文化をもっている。ただそれだけなのだ。何も悪いことをしていないのだ。だから自分をせめる必要はないのだ。彼らは私と彼らの文化が違うことが分からないのだと考えるようになりました。すると、カナダに来たことをあれほど後悔していたのに、後悔するどころか、自分に自信がもてるようになりました。勉強を頑張ると、それなのに結果がでてくるし、運動も音楽活動もできるここで私は笑って未来を考えはじめました。今は、私ができることに最善をつくすことしか考えていません。

小学生の時から、私の心の中には夢がずっと眠っていたのです。でも、韓国の過酷な競争の真っ只中で、その夢は私の中で死んでいたのです。勉強だけではなく、スポーツや、課外活動も同じように大切にされるカナダは、少しずつ私の痛んだ心を癒してくれました。カナダのバランスの取れた学生生活のおかげで、小さいころから私の中で眠っていた医者になりたいという夢に気付いてあげることができました。夢は一日一日大きくなります。この夢をかなえようと、今十一年生の私は、全身で頑張っています。後悔の念を克服し、私を励ましてくれる両親や先生や友達に感謝して、一步一步前にすすむだけです。

## 子どものときはわすれない

Usman Yahya

ぼくは日本からカナダへ2004年に、やってきました。そのとき、えいこはあまり話せませんでした。それから、がんばってえいごをべんきょうしました。四年こ、中学校三年生のとき、カナダで日本ごをまたべんきょうはじめました。ときどきぼくは、日本ごのきょうじつで、青いそらを見て日本のことをおもいだします。日本のそらは、はれやかな水いろでした。くもは白くて丸かったです。日本ですごした子どものときのことをおもいだすと、ときどきなつかしくて、なみだがでできます。

ぼくはほいくえんでライオン組でした。いちばんこわくておもしろいおもいでは、せつぶんのまめまきです。こわいものはおにでした。おもしろいのはまめをまくことでした。ほいくえんでは、いろいろなことをなりました。おりがみをおったり、日本語をはなしたり、こまわしをしたり、わしよくをたべたりしました。

一年生のとき、まい日ピカピカのランドセルとむしかごをもって学校にいきました。たのしかったです。おひるじかんに友だちといっしょに、学校の校庭でむしをさがしました。バッタとかぶとむしとかマキリをさがしました。ぼくのいちばんすきな友だちは、ぼくのたんじょうびにプレゼントをくれました。プレゼントのなかに、ニトキングのよび、ポケモンとゆうぎおのブラックマジションのカードがありました。いまでもこのプレゼントはたいせつにとってあります。一年生のときに、アニメを見はじめました。いちばんすきなアニメはドラえもんでした。いまでもいろいろなアニメとまんがをよみます。

二年生のときに、ポケットモンスターがもっとすきになりました。いろいろなポケモンのカードやぬいぐるみ、ステッカーやしたじき、えんぴつばこなどをかいました。今でも、このポケモンのコレクションはぼくのたからものです。二年生のときに、おいもほりのえんそくへ行きました。そこで、いろいろなおいもをほりました。ぼくは、オレンジやしろのおいもを見てびっくりしました。お正月がちかづくとき、先生といっしょにおもちをつくりました。おいしかったです。

三年生のおんがくかいでは、もっきをたたきました。そして「せかいにひとつだけのはな」のうたをうたいました。今もこのうたはMP3プレーヤーにはいっています。三年生のうんどう会では、ぼくはしろ組でした。つなひきをして、たくさん走って、つかれました。スターウォーズのダンスもしました。しろ組がかちました。ぼくはうれしかったです。すきなかもくはずこうでした。ねんどで、きゅりゅうを作りました。このきゅりゅうでどろメダルをもらいました。このメダルは、ぼくのたからものになりました。今でも、ぼくのへやのかべにかざってあります。

日本のどうぶつえんはとてもたのしかったです。パンダやコアラなど、いろいろなどうぶつがいました。日本をはなれるとき、三年生の先生がパーティーをしてくれました。このパーティーで、ぼくは友だちからプレゼントをたくさんもらいました。今もこのプレゼントを日本のおもいでとしてたいせつにしています。

にほんのアルバムを見ているといろいろなおもいがよみがえってきます。ぼくは日本でたのしくてきょうな子どもじたいをけいけんしました。子どものころのけいけんは、だれにとってもとてもたいせつです。じんせいでいちどのことだからです。

## 温かいコミュニケーション

Ashley Wang

皆さんは電話をかけるより、携帯メールを送るほうが多いですか、少ないですか。私の友達のシャリーさんが、最近、私が無量携帯メールプランを使わないばかりではなく、一か月に三十回しか携帯メールを送ることができないプランに入っていることを知って、驚きました。シャリーさんは私がメールを一か月に30通で済ませていることが信じられないようでした。彼女は以前は一か月に2500通のメールを送っていたそうですが、それでも足りない為に無量携帯メールプランに変更したそうです。私はシャリーさんに「電話をかければいいんじゃない〜」と言って、電話を使うことを勧めましたが、彼女は電話が苦手です。私はそれを聞いて、とてもびっくりして、現代社会において人と人の活きたコミュニケーションがだんだん少なくなり、お互いの関係も次第に疎遠になってきていることについて考え始めました。

人類の発展の歴史を見てみると、最初のころは、ボディーランゲージと言う簡単な方法で会話をしていたようです。それから、言語が生まれ、その方法はもっと複雑になりました。今はテクノロジーがとても速く進歩し、現在私たちはコミュニケーションの手段として、再び簡単な方法を使うようになりました。それは、原始時代の簡単とはまた違います。携帯メールを使った方法なんて、ただ親指を動かすだけの運動だと思いませんか。

実は、シャリーさんだけではなく私の周りの人にも、携帯メールはとても人気が出てきているようです。たとえば、子供のとき、お正月に、両親のいろいろな友達が家を訪ねて来てくれた記憶があります。しかし、今、そうする人はたぶん多くないと思います。多く人は「あけまして、おめでとうございます。」と年賀状の代わりに携帯メールを送るのではないのでしょうか。それに、宛先人の名前すらも書かないで、ただみんなに一度に送る人もたくさんいます。そんな物をもらっても、温かく感じられません。これをコミュニケーションと言えるのでしょうか。それに対して、向かい合わせで話すときには、相手の顔も見え、反応もすぐ読み取れるし、身ぶりもあるし、人間的で、いいのではないのでしょうか。私は、直接、相手の声を聞いて、顔を見て話すコミュニケーションは、人と人とのつながりの中で、とても大切なものだと思います。

現代社会では「速ければ速いほど良い」という考え方が主流になっているし、そのような世界に住んでいる私にとっても、皆さんにとっても、ちょっと無理なことは私もわかっているのですが、昔のように、周りの人と、心のこもった、温かいコミュニケーションを取ることを忘れないでいただきたいです。

## 怖いお姉さん

Wenjie Shi

みなさんは、タワーについてどう思われますか。大学生のわたしがタワーをしている、と言ったら、おどろかれますか。

わたしのせなかには、ちょうのデザインのタワーがあります。これは、両親から、高校でいいせいせきを取ったときに、プレゼントされたものです。わたしはすごく気に入っていて、両親も友だちも似合えと言ってくれます。

わたしの母は、ときどき、わたしのタワーを見て、「そのタワーがあるから、たいへんなことになって、あなたはすぐ見つかるね」とじょうだんを言ったりします。

カナダでは、タワーはいけないうもの、とは考えられていません。少なくとも、わたしやわたしのまわりの人たちは、タワーはわるいもの、だとは考えません。でも、世界には、タワーについて異なる見方をしている文化圏もあるようです。それをわたしがけいけんしたのは、わたしがアジアへ旅行したときのことです。

わたしは、日本で、おんせんに行くきかがありました。おんせんでは、まわりの人たちが、わたしの背中を変なものを見るように見っていました。中国のショッピングセンターでは、何人もが、わたしのせなかを見て、つれの人と何かこそ話していました。わたしを不良かなにか、と思ったのでしょうか。わたしは自分のタワーが大好きなので、人々のこんなはんのうを見て、きずつきました。

わたしの友だちに、けしうのすごく上手な子がいます。プロキゆうです。でも、彼女のお母さんは、彼女がこいけしうをするのを好みません。なぜなら、そんなけしうは、遊び好きな女の子がするものだ、と思っているからです。お母さんは、どうして彼女のけしうしたときのみりよくをみりよくとして見てくれないのでしょうか。

でも、わたしは、さいきん、心理学を勉強しているので、いろいろなことが分かってきました。わたしたちは、出会ってまもない人のことは、外見ではんだんするけいこうがあるのだそうです。わたしのタワーを見たときの、人々のひそひそ話しなどが、れいです。私は私ではなく、「タワーをしている人」なのです。これは、へんけんです。

へんけんは、人と人との間のりかいをそくしんしません。むしろ、りかいのかのうせいをつぶしてしまします。へんけんをのぞくには、どうしたらいいのでしょうか。わたしは、それは、人それぞれのこせいを受け入れることによってかのうだと思ひます。

わたしは、自分のタワーが好きです、このタワーのおかげでこ数年いろいろなことを考えました。わたしはこわいおねえさんではありません。そいうことを分かってくだされば、さいわいです。

## 朝ごはん

Youjin Jang

これは、12年前、わたしが小学校5年生の時の話です。

私は、うちではおとなしい子どもでしたが、学校ではかっぱつな生徒でした。がっきゅういんをしたり、ほうかごのクラブ活動をいっしょうけんめいしたり、しました。クラブは、歌をうたうのが大好きだったので、がっしょうぶに入りました。

がっしょうぶは4年生のときに入ったのですが、私が5年生の時に、このがっしょうぶがソウル市の合唱大会にでることになりました。

ふだんのれんしゅうは週3回。大会の1週間前からは、朝にもれんしゅうがありました。朝の7時から毎日1時間半のれんしゅうです。

実は、私は早起きするのが苦手なんです。それで、朝のれんしゅうが始めてあった日、早く起きられませんでした。それで、ごはんを食べずに学校へ行こうとしました。すると、母が言いました。冗気はごはんの力で出るんだよ。だから、食べなさい！」でも、私は、そのまま学校へ行きました。前にも朝ごはんを食べないで学校へ行ったことがあるので、平気、平気、と思いました。

れんしゅうにはおくれずにつきました。私は、いつものように一番上のだんに立ちました。そして、れんしゅうが始まりました。それから30分くらいたって、頭がいたくなりました。こえを出すにつれ、もつといたくなりました。

それからしばらくして、私は力がぬけるのを感じました。目の前がまっくらになり、それと同時に、「どん」という音が聞こえました。からだじゅうにいたみがはしました。

目をさましたのは、病院です。足とでがきずだらけでした。でも、起きることができたので、お手洗いへ行きました。そして、かがみにうつる自分の顔を見てびっくり。下のくちびるがはれていて、上の歯が1本半分に折れていました。

私は大きいこえでなきました。お医者さんが、朝ごはんを食べなかったのでひんけつを起こしたんだ、と言いました。母には、すごくしかられました。

このひんけつそどうの後、わたしは毎朝ごはんを食べて学校に行くようになりました。今もそうです。朝ごはんを食べて学校に行くと、力が高まります。頭がよくはたらいしているのが感じられます。そして、毎日が活気に満ちています。

私たちは時間がないから、と朝ごはんをぬきがちですが、やはり、けんこうのため、充実した毎日をおくるため、朝ごはんは食べるべきものだ、と思います。

私のくちびるに残ったきずあとは、いつかは消えるかもしれませんが、でも、このきずあとが教えてくれたことは、一生忘れません。

## 多文化主義の落とし子

Sam Ramandi

皆さん、今日は！ 僕の名前はサムです。何人に見えますか？ イラン人ですか？ スペイン人ですか？ アフガニスタン人にも見えるかもしれません。インド人でしょうか？ 日本人にはちょっと見えませんよね。実は、僕はカナダ生まれのカナダ人です。でも、僕の父はモロッコ人。そして、僕の母はサスカチュワン生まれのフランス系カナダ人です。そして、今、僕はランガラカレッジで日本語やアジア学を勉強中です。カレッジを卒業したら、大学に行って、もっとアジアの事を勉強したいと思っています。それに、僕はアジア人の女の子についても色々研究してみたいと思っています。

僕は今、ダウンタウンのクレープ屋でアルバイトをしているのですが、そこではたらいっている日本人の同僚に、僕のバックグラウンドの事を話すと、「すごくごちゃごちゃなのね！」と言われました。でも、バンクーバーではごちゃごちゃのバックグラウンドを持っている人は普通なので、あまり特別だとは思いませんでした。でも、このスピーチコンテストに応募する事になって、いろいろと考えてみました。

カナダにはマルチカルチャーリズム、多文化主義が存在します。色々な文化が共存しながら、カナダという国を造っているのです。多文化主義で大切な事はお互いの文化を受け入れて、一つの国を美しいモザイクのように育てて行く事です。こんな風に考えると僕はその多文化主義の落とし子みたいなものだなあ、と思うのです。

僕は、モロッコ人の父、フランス系カナダ人の母、そして五人の兄弟達と、この文化のミックスジュースみたいな家庭の中で育ちました。父は小さいときからイスラム教のコーランを覚える事が生活の中心になっていました。僕は小さい時、父がイスラムの神様に供えるために、生きた羊を殺すのを見ました。動物の事が好きな人にはショックかもしれませんが、これは、イスラムの文化の中ではとても神聖な儀式です。それに、カナダ生まれの僕としては、ベジタリアンになる人の気持ちもこの儀式をみて、分かるようになりました。

また、僕は祖父母とカトリックの教会に行った事一回あります。僕の祖父母は、今までも、フランス語を流暢に話します。フランス風の食生活は生活の中心で、僕の家族はいつもワインを飲んだりチーズを食べたりします。父も母も僕にお互いの文化や宗教を強制する事はなかったので、僕はこの二つの文化の中で自由に育ちました。それに、バンクーバーの家では子供の頃から、日本人のホームステイの学生が来ています。それで、日本の事に興味を持ち始めました。父や母も日本の事が大好きです。僕は、こんな自分のバックグラウンドを生かして、多文化主義をいろいろなところに広げる手伝いができる人になりたいと思っています。2001年の九月11日事件のすぐ後、学校の友達に「お前の父親もテロリストだろう」と言われた事があります。ごく普通のイスラムの人たちの生活を知っている僕にとって、これはとても不愉快な出来事でした。

どうして、アラブ語やフランス語より日本語を勉強するのかとたずねる人がいますか。でも、それは今日のスピーチでお話したような事を日本人の友達と話し合いたいからなのです。僕は相手の国の言葉を勉強する事で、多文化主義を難しくする言語の壁を壊して行きたいと思っています。そうすれば、カナダの財産、多文化主義がもっと世界に広がって行くと思います。さて、皆さん。今、僕は何人に見えますか？

## 私の痴漢体験

Kung Ho Chiu

皆さんは日本語の「痴漢」という言葉をご存知ですか。痴漢というのは公共の場所で見知らぬ他人の体に勝手に性的に触る事です。これは、明らかに犯罪行為なのですが、今、日本ではこの痴漢問題が深刻な社会問題の一つになっています。そして、実はその痴漢行為が一番多く起きている場所は、電車の中なのです。日本人はとても礼儀正しい国民です。なのに、どうしてこんな問題が起きているのでしょうか。今日はここで日本での私の貴重な痴漢体験を通して考えてみたことを話したいと思います。

去年、私はワーキングホリデーで日本へ行きました。ある日、私はいつものように通勤電車に乗りました。そして、座席に座るとあることに気がつきました。その車両に乗っている人達は全員女の人で、皆が私の事をちらちらみていたのです。私は一瞬、「僕って日本で持てるタイプなのかなあ」と、にやにや微笑むと、なんと、年を取ったお婆さんまで私を見つめていました。その瞬間、私はハッと気がつきました。「しまった！これが噂の女性専用車両なんだ！」と、気がついた後、私は何もなかったように隣の車両へゆっくりと逃げ出しました。隣の車両についた時は背中が汗でびしょ濡れになっていました。でも、とても不思議でした。「どうして、あの女の人たちは私に「女性専用車両ですけど」と言ってくれなかったのでしょうか。

でも、日本にしばらく住んでいて、その理由が少しずつわかって来ました。日本の人は他の人に迷惑をかける人がいても、見て見ぬ振りをする人が割りといます。多分、他人の事に口出しをして、自分もトラブルに巻き込まれると困っているのです。だから、女性車両でニヤニヤしていた私に誰も声をかけてくれなかったのだと思ったのです。でも、同時にこんな事だから痴漢が横行するのではないかとも思いました。被害者になっても何もいわない女の人の方が実は沢山いることをテレビで知りました。でも、考えてみれば私も被害者です。あの恥ずかしかつた瞬間は今でも忘れる事はできませんし、ひょっとしたら私も痴漢と勘違いされて逮捕されていたかもしれません。

皆さんも東京や大阪の満員の通勤電車の様子について聞いたことや見た事があると思います。電車の中ではぎゅうぎゅうで、息もできません。当然、体と体が密着して誰でも痴漢に見えてしまうと思います。日本の男性達はいつか痴漢と間違われて逮捕されるかもしれない恐怖心を感じながら、毎日、無事を祈ってこんな通勤電車に乗って仕事に行くのです。最近では、男性の被害者も大勢いることを聞きました。男女同権は大切なことですが、こんなことで平等になっても何もいいことはありません。

日本では人前に出て何か違うことをするのをさける人が多いようです。やっぱり出る杭は打たれるのでしょうか。でも、間違っている事はその場所ではっきりと指摘してあげる事が加害者にも被害者にも大切なことなのではないでしょうか。そうすれば、痴漢問題がこんなに地下に潜って広がらなくなるのではないかと思います。それに、トラブルに巻き込まれたくないと言う社会風潮はきっと、政治や社会のいろいろな面に悪い影響を与えているのではないのでしょうか。一歩前に出て自分の思っている事を言う事の大切さについて、私は自分の痴漢被害者体験から考えてみました。

## 自分を笑うこと

Christopher Unger

皆さん、こんにちは。今日、私は笑うことの大切さについてお話します。毎日毎日、私はカナダ人がよく愚痴をこぼすのを目撃します。「バスが来なかった」、「弟はすごうるさい」そして先生は宿題を出しすぎるなどです。私も、そんなことについて愚痴ったことがあります。北アメリカでは人々がよく愚痴を言いながら怒ります。しかし、日本ではちょっと違うと思います。大変な場合があるにも関わらず、たくさんの日本人は、笑います。私は日本人から、自分を笑うことが必要なんだと教わりました。

たとえば、日本のゲーム・ショーでは、人々が自分を笑っているのがよくみられます。「マジで」という独特なコメディの番組で、人々は色々な競争をします。ある日、私は、人々が棒を使って温泉の上で闘うのを見ました。そして、負けた人は、温泉の中に落ちたのですが、お湯が熱すぎたので、あわてて冷たい水に飛び込みました。闘って負けた人は痛かったようですが、自分を笑うことができました。彼は笑うことで完全に負けていませんでした。自分にできることをすべてしても、泣くことは役に立ちません。むしろ負けても笑うことで、次に勝つために彼は気持ちを前向きに変えたんだと思います。

他の例はアニメと漫画です。私の一番好きな漫画は、「ブリーチ」です。「ブリーチ」は、強い侍や幽霊や死神の話です。時々「ブリーチ」のキャラクターは、自分の状況を面白く皮肉ります。たとえば、死神のルキアさんは真面目で大変な使命を伝える時、説明するために可笑しい絵をいつも描きます。大変な状況の時、ジョークを言うことで自分の気持ちを明るくするだけでなく、他の人の心も明るくするのです。

「ブリーチ」のオープニングの「Alones」と言う歌は人気があります。歌の中の一番大事な言葉は、「も誰かのためじゃなくて、自分のために笑っていいよ」です。まず自分を笑い、気持ちを明るく前向きにして、それから周りの人の気持ちも軽くすることの大切さを、この歌も教えてくれています。人生は時には悲しいし、時には苦しいです。そんな時、笑って自分の心をまず軽くすることが大切です。それが自分を助けるだけでなく、周りの人を助けることになるのです。今、日本人のように自分を笑って、自分と周りの人を明るくすることがカナダ人にも必要だと思います。

ご清聴いただき、ありがとうございました。

**曖昧な習慣から脱却！**

Anais Pang

日本文化が大好きな私は、日本語を勉強し始めてもう6年になります。しかし、今でもよく理解できないのは、日本人が頻繁に使用する曖昧な表現や言葉です。物事をストレートに表現する英語や中国語に比べて、日本語では言いたいことを言わずに婉曲表現することが多いと思います。多くの外国人にとって、この曖昧な表現に隠された日本語の意味を理解することは非常に難しいことですが、私は、これはむしろ日本の社会の調和を維持する重要な文化だと思っています。

こんな事を経験したことがあります。ある日、日本人の友達との約束に遅れて、きっと怒られると思ったら、平気、平気！でも、さすが、外国人ですね！」と友達が言いました。その時はこの言葉の意味をあまり理解できませんでしたが、後になって「約束した時間を絶対に守るのは日本人の常識」という意味だと分かりました。「さすが」というのは皮肉な言い方かもしれませんが、自分の気持ちを曖昧に表現するのは、相手をあまり傷つけず、「和」を維持するための日本人の知恵なのではないでしょうか。日本は島国であるという地理的環境から、歴史の大部分を独自の文化内で維持することが出来ました。環境が様々な問題や交渉を暗黙のうちで解決するコミュニケーション方法を生み出し、それが次第に常識になってしまったのだと思います。しかし、日本は現在世界第三規模の経済大国であり、対話する相手は広い世界です。

私は大学で政治科学を専攻していますが、実はここでも日本の政治家が過度に使う曖昧な表現に頭を悩ませています。日常生活における曖昧さはおそらく良いことで、外国人も学ぶべきだと思いますが、政治や国際のレベルでは、曖昧さは弊害を及ぼします。かつて、中曽根元首相は日本の政治家は理念や政策が希薄だと指摘して、「日本は極めて曖昧な合意の上に政治が成り立ってきた。国民を引っ張る力がどこにもない、まさに漂流国家だ」と言いました。この記事を読んだとき、そうかもしれない、と思いました。例えば、最近では、尖閣諸島の領土問題をめぐって、2009年に鳩山首相は「米国の立場は日本と中国、当事者同士でしっかりと議論して結論を見いだしてもらいたい」ということだと、理解していると述べました。それに対して、岡田外相が首相の発言は曖昧だと批判しました。鳩山首相の発言は日中両方の関係を保持するためのものですが、領土問題においては、この曖昧な発言は、日本人も含めて、日本の政治に興味がある外国人にも不明確な印象を与えたのではないのでしょうか。

世界各国では、日本のソフトパワーの輸出のおかげで、多くの外国人が日本のテレビドラマ、映画、音楽、漫画などの影響を受けて日本文化に興味を持っています。そして、日本への留学を目指す若者も増えています。また日本企業もグローバル化を推進し、競争力を強化するために外国人や外国語を習得した帰国子女を採用するケースが増えています。日本は既に孤立した島国ではなく、世界に様々な文化や先端技術を発するリーダー国であることは、諸国が認める事実です。様々な文化背景を持つ諸国の人々に、日本人が曖昧な表現を使い続けるのであれば、様々な支障が生じます。

菅総理大臣が今年一月の方針演説で「日本はこれから現実を冷静に見つめ、内向きの姿勢や従来の固定概念から脱却すべきである」と述べましたが、多くの日本人は、既に現実を冷静に見つめています。むしろ、これからの日本は世界でも有数の先端情報技術を利用して、日本人の視点や意見をはっきりと世界に伝えることを目指していく必要があるのではないでしょうか。そのためには、相互理解を深めるために、コミュニケーションの基礎である曖昧な言葉や表現を取り除き、明確な意思伝達をするべきでしょう。それがグローバル化を成功させる重要な要素のひとつだと思います。

## 日本を変える 草食系男子

Yu Chi Chou

みなさん、こんにちは。私が日本人の男の友達と話している時、最近、友達に草食系だと言われて、めっちゃショック！」と彼は言いました。草食系？みなさんはこの言葉を聞いたことがありますか。草食系男子の意味が分からなかったので、その時私は野菜しか食べない男の人のことだと思いました。インターネットで調べたら、草食系男子というのは恋愛には興味を持たず、おしゃれに関心をもち、家事や節約や料理などをするのが好きだといふ新世代の優しい男の人のことだそうです。

私は男性は新しい時代に合わせるために草食系男子になってしまったと思います。その現れを説明するのに一番適当な理由は男女平等意識の芽生えだと思います。女性が専業主婦にしかねないという古い考え方は打破され、今の女性は男性と平等な地位に立っています。そのため、女性に絶対的に必要とされている感じがなく、寧ろ女性に負けたと感じている男性は自信を失いました。その挫折感で、女性的なことをするのが好きで恋愛をしたくない草食系男子が表れるという女性と男性の役割交換という現象が出ているのでしょ。

また、人々の考えは新時代と共に開放的になり、子供を生むことは以前ほど重要ではなくなったので、ガツガツと異性を求めなくてもいいです。ガールフレンドで十分だと男性はそう思ってしまいました。そして、不景気な時代の影響で、恋愛より仕事を探すことなど、もっと大事なことがあると思う男性が増えました。彼らの出現は日本の結婚率の低下に反映されています。

開放的な考え方と優柔不断な性格と自信がないことなどは草食系男子の現れの原因であるだけでなく、彼らが恋愛したくない理由でもあると思います。

2011年に日本の厚生労働省が報告したある調査では、十六歳から十九歳までの日本男性の中には三分の一の人は性行為に興味がなく、日本で性行為のない婚姻が40%に至り、草食系男子が急増していることを指摘しています。人口の低下の上に、少子化の影響で親は子供に甘くなりすぎ、子供が独立できなくなってしまいました。草食系男子の現れはある一種の社会問題となっています。

また、ある日本人の女の友達の話によると、彼らは腹が立つほど細く、全てを女に任せる単なる駄目男です。優しく落ち着いている気がするからと、草食系男子が好きな女性はいますが、多くの女性は強引に引っ張ってリードしてほしいという男の人に対するステロタイプはまだ残っているようです。日本の女性がたえ以前より先っ独立してきたとしても、やはり男の人に依存したいということかもしれません。

草食系男子『お嬢マン』が日本を変える、という本を書いた牛窪恵はこう言いました。彼らは男らしさに拘らず、男女平等を自然に受け入れている。彼女は草食系男子の存在をよい変化として見ています。私もこの現象は社会に悪い影響しか与えないというわけでないと思います。料理や家事などが好きで優しい彼らは男女平等を認め、女性の生活をもっと楽にし、セクハラもそれに連れて減ってくるのではないだろうかと思います。今の女性は結婚しても自分が一生懸命に得た仕事を辞め、専業主婦にならなくてもいいのです。そして、結婚生活も夫と子供の面倒をみることだけが求められているのではないので、女性はもっと個人的な時間を持つことができるのでしょ。

草食系男子によって、結婚率が低下しているという問題は解決しなければなりません、彼らの新しい考え方で女性の生活は以前より先とよくなったと思います。だから、私は新しい時代をもたらす草食系男子の存在はいい社会変化だと思います。これから、日本がすべきことは一面だけで草食系男子の存在を否定することではないと思います。本や媒体を通し、世間に草食系男子を紹介することなど、どうやって人にこの新しい時代を受け入れさせるかという方法を考えるべきではないでしょうか。

## だって、みんな人間だから

Andrew Huang

日本人の特徴として、「ありがとうと言い過ぎる」、怒るのは珍しい」というようなイメージを持っている人が多いと思います。すくなくとも私は日本人と実際に会う前に、ずっとそういうステレオタイプな考えを持っていました。しかし、日本で一年間留学していた間に、私は非常に衝撃的な体験をしました。今からその一つの信じられない体験の話をしていただきます。

日本では、エスカレーターを使う時、左側にいる人はずっと立ち止まっているのに対して、右側にいる人は立ち止まらずに歩き続けるという習慣があるようです。ある日、新宿駅でエスカレーターの前で左側に立って自分の順番を待っていたのですが、人がぎっしりと並んでいたため、右側に移ろうと思いました。移ろうとしたとたんに、突然誰かに首を絞められたような感じがしました。後ろを振り向くと、ある不良っぽい少年が私のコートのフードをつかんでいました。「お前、邪魔すんな」と怒鳴って、「はい...すみません」と私は震えた声で謝りました。やっと、その少年はフードを放して、そのまま歩き続けました。初めてそんなに怒った日本人に出会ったので、大変びっくりしました。

この話の要点は、日本人は怒りやすく失礼な民族だから関わらないほうがいい、ということなのだろうか？と皆さんは思っているかもしれませんが、誤解しないでください。実は、私が一番話したいのは「ステレオタイプな考えを持つべきではない」ということです。ステレオタイプな考えを持つのは、極めて簡単で危険なことだと思います。なぜかという、私たちは現代のマスメディアのおかげで、誰でも旅行せずに各国の文化や景色やそこに住む人々をある程度理解することができるようになりました。自分の居間で、エジプトのスフィンクスが見られるし、中国の千年歴史も習えるし、とても便利です。しかし、自分の居間の中にいながら、マスメディアによって切り張りされた文化だけを見ていると、勝手なイメージを持ちやすい。その結果、マスメディアの影響により、他国の人を特定のカテゴリーにも入れやすいのではないのでしょうか。

では、どうしてこれが危険なことなのでしょう？理由が2つあります。一つ目は、そのような固定的で、画一的で、非現実的な考え方がずっと頭にこびりついていたら、旅行する意味がなくなってしまうからです。旅行する目的は単に他国の文化や人々を理解するためだけではなく、やはり視野を広めて境界線を持たない真の国際人になることも極めて大切です。2つ目の理由は、国籍に基づいて人々を判断するのは非常に危険で無礼だということです。私の場合、最初に日本に留学した時、会った日本人はいつも外国人に優しくしてくれて、私たちの誤りにも寛容でした。そのため、「大丈夫、大丈夫！日本人だから絶対怒らないだろう！」と私はずっと勝手に思い込んでしまいました。もし私は思い込んでいなければよかったです。もっと気をつけるようになり、その不良っぽい少年の邪魔もせず、人前で恥をかかされていないかもしれないのです。

私は長く日本にいればいるほど、大切なことがわかってきました。どんな民族でも、どんな国で育っても、天気がいい時は笑顔になったり、大切な人が死んだら泣いたり、面白い冗談を聞いたら爆笑したり、といった人間に共通している感情があると思います。人々の外見や国籍に基づいて区別するよりむしろ、人間の共通点を見つけるべきだと思います。

## 私は誰ですか？

Jay Kim

お話を始める前に、このスピーチコンテストに参加する機械を与えてくださった方々に感謝します。このスピーチは、去年私が日本に1年間住みながら経験したことをもとにした在日韓国人たちの人生についてのお話でございます。

私は去年、約1年間交換留学生として早稲田大学で勉強する機械を与えられました。あんまり長い間念願していた日本への留学が遂に成り立ったので私は出発する前から留学生活を楽しみにしていました。しかしこの時までにも重要な出会いが私を待っていたということを私は悟っていませんでした。私が日本にいる間に近くのスポーツセンターでフットサルをやりましたけど、そのとき在日韓国人たちに会いました。一緒にフットサルをやってる間、仲良くなっているお互いについて話せるようになりました。

私には韓国語で話しても、在日韓国人の友達はお互いに日本語で話すことを不思議だと思った私は問って見ました。"どうして韓国人なのに日本語でしゃべってるの?"と聞くと友達はこう返事しました。"私たちには日本語で話すのがずっと楽なの。家でも家族と日本語で話すのよ。"私はこの時から在日韓国人に関するさまざまなことが知りたくなりました。同じ国の人なのにかけがえなくお互いに対してよく分からないということが納得できなかった私は在日韓国人友達と交わりながら彼らに対してもっと理解して行くようにしました。

一番先に知りたかったことは日本で生まれて育った彼らがどうやって韓国語を学んだということでした。日本にある大多数の在日韓国人は朝鮮学校という所を小学校から大学まで通うそうです。基本的に朝鮮学校では朝鮮語で授業をすることに規定になっているので学生たちは朝鮮語を学校で習得するようになっています。彼らが学ぶ言語は具体的に言うと韓国語ではなく朝鮮語であったのです。彼らが北朝鮮の朝鮮語を学ぶようになったきっかけは朝鮮学校の設立と深い連関があります。1940年代日本にあった在日韓国人の中で95%以上が今の韓国から日本に行った人々だったが、結局この人たちに学校を設立してあげて、自立できるように手伝ってあげたのが北朝鮮でした。当時に韓国はとても貧困だったので日本に住む同胞たちに対する援助ができる状況ではありませんでした。韓国で教育を受けて育った私とは情緒差があるしかなかったのです。しかし彼らは私にこうやって言ってくれました。"私たちがたとえ北朝鮮の教育を受けたと言っても、私たちにとって韓国と北朝鮮という区別はない。私たちは皆韓国人だよ。"

2010年にワールドカップで韓国と北朝鮮はお互いに違う国家を代表して出場したが、私たちは一人になって両国を熱裂に応援しました。そうです。私たちに国境はなかったのです。政治的な葛藤によって結局韓国は分断の痛みを持つようになったがそれはただ地図の上の国が分断になっていることだけで人々の心まで分断させることはできなかったのです。

大学・一般部門 第23回オープン第1位  
Jay Kim

この間あったアジアサッカー大会で日本が優勝をしたが、最後の決勝ゴールを決めた選手の名前は日本人の名前とは少し違いました。彼の名前はリー・タダナリ。在日韓国人 4 世です。彼が去年の韓国のある放送局のドキュメンタリーに出演して韓国代表になりたかったが韓国が自分を受けてくれなかったと言ったインタビューはよほど大きい 이슈 を呼び起こしたがこれはまことに悲しい事に違いありません。韓国人としての矜持をずっと守って来た在日韓国人に暖かい祖国になってくれることができない韓国という国が私としては本当に恥ずかしく感じられました。韓国人としての人生も選ぶことができずに、そして日本でもいつもザイニチと呼ばれる現実、彼らにおいてはどっちも選択することができない深いジレンマに違いありません。

5分という短い時間の間沢山の話はできなかつたが少しでも在日韓国人の人生について理解できるようになって 関心を持つようになった方々がいらっしゃれば私は満足です。

今まで私の話を聞いてくださった皆さんに感謝しております。

### 三つ文化の教え

Aiste Blaviesciunaite

皆様こんにちは。私はアイステと申します。本日は皆様に、私を育て常に向きに進むことを教えてくれた三つの文化についてお話ししたいと思います。

私が生まれ育ったリトアニアはバルト三国の一番南の国です。リトアニアは数々の困難を乗り越え千年以上存在し、特有の文化を守ってきました。世界の人から見るとリトアニアは非常に小さな国です。しかしリトアニア人は大きな目標を掲げて生きています。それは多面的な教育に基づき、個性を育て、真実をはっきりと主張できる人間になることです。女性も仕事をし、二カ国以上の言語を話します。こういう精神は社会の色々なところに反映され、小学校の頃から「私はこんな人になりたい」と皆が考えるようになります。

この環境で育った私は、リトアニアの国に生まれた価値観を学び、朝から夜遅くまで勉強を続け、できるだけ理想の人間に近づけるようになると頑張りました。その努力の真っ最中に私は日本に留学しました。日本は多くの面で世界のリーダーとなっていますから、そこで理想の人間に近づくための勉強ができると考えたのです。

でもそこで経験したのは思いもかけないカルチャーショックでした。まず、大学は人生で最後に遊べるチャンスだ、という学生の考えにおどろき、そして、個人より集団のハーモニーを大切にすること、出る杭は打たれる、上下関係を重んじる、女性は男性の前に出ない、等等、私を混乱させることばかりで悩んでいるうち、何が正しいのか分からなくなりました。

周りの人々のやり方をよく観察し意見を聞いて考えました。なぜ日本人が結果より経過を大切に、長期的により人間関係を築き上げることに力を注ぐのか、考えました。そんな中でも自分が正しいと思うことを主張することができないか、女性でも一人の人間として社会に貢献できないのか考えてきました。そして、相手の立場を考えながら意見を言うこと、敬語を使って気持ちを表現すること、女性の視点で意見を言うこと、等を学ぶことができました。文化の違いに触れ、私の価値観が広がり、色々な場面で色々な人々と話し合う力がついた気がします。

その後、奨学金でUBCに来ることができました。カナダに来て半年が過ぎました。自然の豊かなバンクーバーの人々はリトアニアの人とも、日本の人とも違った価値観を持って生活しているようです。そして私にとってはこれが新たな挑戦となり、カナダはまた私に新しい価値観を模索する機会を与えてくれています。

日本やカナダでの体験は、リトアニアで真実を追究したいと考えてきた私に、真実とは一つに限定できるものではなく、理想の人間とは多くの価値観に触れ、悩んだり迷ったりする経験の積み重ねの中から少しずつ形作られていくのではないかと気づかせてくれました。私にはまだ答えは見つかりませんが、考えることが私を前に進ませてくれます。私の旅はまだ終わりそうにありませんが、そういう毎日が面白くてワクワクしています。

ご静聴ありがとうございました。